

検討の観点と教科書の特徴

もくじ

- 教育基本法第2条との関連 1~2
- 学習指導要領総則との関連
 - ・他の教科や教育活動との関連等 2
 - ・道徳教育推進上の配慮事項 3
- 学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」との関連
 - ・道徳科の指導及び指導の配慮事項 3~5
 - ・道徳科の教材に求められる内容の観点 6~7
 - ・道徳科の評価 7
- 本書の編集における配慮や工夫等 8



この資料は、(社)教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則って作成されており、配布を許可されています。

検討の観点	教科書の特徴	具体例
● 教育基本法第2条との関連		
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健全な身体を養うこと	<ul style="list-style-type: none"> ●豊かな情操と道徳心を培うことを基本方針として編集した。内容項目「真理の探究、創造」を扱う教材をはじめ、学習全般を通じて真理を求める態度を養うことができるよう配慮した。 ●健全な身体を養うことに関わる「節度、節制」の内容項目に関する教材は、すべての学年で早い段階に学べるよう、本冊掲載教材の配列において配慮した。また、別冊1年では生活習慣の自己確認ができる欄を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「ミスター・ヌードル -安藤 百福-」P80~85 / 2年「ガストロカメラ」P20~24 など ●1年「釣りざおの思い出」P32~35 / 2年「これは駄目? これも駄目?」P32~33 / 3年「独りを慎む」P19~21 など
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと	<ul style="list-style-type: none"> ●内容項目「向上心、個性の伸長」や「思いやり、感謝」、「相互理解、寛容」などに関する教材をはじめとして、学習全般を通じて自己肯定感を高め、自己はもとより他者の価値も尊重する態度を養うよう配慮した。 ●別冊「道徳ノート」への記述を手がかりに自分の課題や目標をもって自己の能力の伸長が図られ、生活の中でさまざまなことに関心を抱き、創造力を高める学習が展開できるよう配慮した。 ●自主及び自律の精神を養う学習を本書の重点の1つとし、内容項目「自主、自律、自由と責任」に関する教材を、全学年3教材、3時間配当した。 ●本冊では暮らしと働くこととの関連を意識できる教材を配置した。また、別冊2年では、働くことの意義を理解し、将来の仕事や自分の生き方についての考えを書き込む特集を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「木箱の中の鉛筆たち」P48~51 / 2年「野生の猛禽を守るために」P25~29 / 3年「原稿用紙」P41~43 など ●全学年別冊巻頭「中学〇年生の私」 ●1年「裏庭のでのきこと」P10~14 / 2年「小さなこと」P70~71 / 3年「リクエスト」P4~9 など ●1年「午前一時四十分」P126~129 / 2年「加奈子の職場体験」P77~81 / 別冊2年「働くことの意義を理解し、将来を描こう」P21 など
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと	<ul style="list-style-type: none"> ●「いじめ」や「人権」に関する課題を取り上げた教材を「公正、公平、社会正義」を含む複数の内容項目で掲載するとともに、本冊 thinking や別冊に「いじめ」や「人権」に関わる道徳的な問題を考える材料を多様な観点から設けた。 ●「いじめ」や「人権」に関する課題を、道徳の内容に示された4つの視点から捉えて考えを深めるページを本冊各学年の巻末に特設した。 ●自他の敬愛と協力を重んずることについては、本書の重点の1つである「思いやり、感謝」をはじめ、「よりよい学校生活、集団生活の充実」「家族愛、家庭生活の充実」などの、複数の内容項目に関する教材を掲載した。また、「友情、信頼」に関する教材では、男女の平等を重んずる態度を養うため、生徒と同年代の男女の主人公の関係を成長とともに3年間追いつながり、異性ととの人間関係について考えることのできる教材を掲載した。 ●公共の精神に基づいて、社会に積極的に関わっていかうとする姿勢を育む教材を掲載した。また、本冊すべての学年の巻末に「持続可能な社会」という視点で生徒の主体的な社会参画意識を高めるページを特設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「ヨシト」P36~40 / 別冊1年「いじめ撲滅宣言」P13 / 2年「君、想像したことある?」P40~41 / 別冊2年「いじめの構造」P13 / 3年「卒業文集最後の二行」P36~40 / 別冊3年「世界人権宣言」P13 など ●1年「いじめを許さない 私たちの心」P174~175 など ●1年「旗」P134~139 / 2年「尊い玉子」P82~85 / 3年「監督がくれたメダル」P32~35 / 1年「アイツ」P24~28 / 2年「アイツとセントバレンタインデー」P132~137 / 3年「アイツの進路選択」P72~77 など ●1年「加山さんの願い」P74~79 / 2年「迷惑とは何ぞ」P128~131 / 3年「持続可能な社会の実現を目指して」P158~159 など

検討の観点	教科書の特徴	具体例
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生命尊重を本書の最重点項目と位置付け、内容項目「生命の尊さ」に関する教材を全学年3教材、3時間配当した。また、それらの各学年3教材以外にも、「希望と勇気、克己と強い意志」や「家族愛、家庭生活の充実」など、異なる内容項目の学習においても生命尊重との関わりで考えることのできる教材を数多く掲載した。 ●自然を大切にすることについては、内容項目「自然愛護」に関する教材はもとより、「相互理解、寛容」や「感動、畏敬の念」など、異なる内容項目の学習においても人間と自然との関わりについて多面的・多角的に考えることのできる教材を数多く掲載した。 ●現代的な課題との関わりも踏まえ、自然や環境に対して関心を高めることができるよう、本冊すべての学年の巻末に「持続可能な社会」について考えることのできるページを特設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「あなたの『生きようとする力』」P15～17、「ふたりの子供たちへ」P154～157 / 2年「燃え盛る炎」P34～39、「本物の将棋指し 一村山聖一」P122～127 / 3年「誰かのために」P24～25、「ひまわり」P54～60 など ●1年「あのハチドリのように 一ワンガリ・マータイ」P42～47、「ガジュマルの木」P164～168 / 2年「樹齢七千年の杉」P13～16、「野生の猛禽を守るために」P25～29 / 3年「襟裳のこと」P44～47、「ほっちゃんれ」P110～112 など ●1年「よりよい未来をつくるために」P178～179 / 2年「持続可能な社会を考える」P162～163 / 3年「持続可能な社会の実現を目指して」P158～159
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●我が国の伝統や文化に関心を高め、親しみや愛着をもち、この国の一員としての自覚を促す契機になるような教材を選定した。 ●日本人としての自覚をもって、他国を尊重し、国際理解、国際貢献に努めることの大切さを考え、世界の平和を希求する思いを高めることのできる教材を各学年に掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「音を宿す」P65～67 / 2年「国」P118～121 / 3年「運命の木 一姫路城の大柱」P128～133 ●1年「国際協力ってどういうこと？」P106～110 / 2年「最も悲しむべきことは、病めることでも貧しいことでもなく」P141～145 / 3年「海と空 一榎野の人々」P119～123
<p>● 学習指導要領総則との関連 —他の教科や教育活動との関連等—</p>		
<p>【健やかな体】 学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●食育や健康教育に関わる教育活動との関連を図ることができる教材等を全学年に掲載した。 ●安全教育や防災教育に関わる教材や特集を掲載し、各教科や他の教育活動等においても活用できるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●別冊1年「自分の生活習慣をチェックしてみよう」P2 / 2年「これは駄目？ これも駄目？」P32～33 / 3年「独りを慎む」P19～21 など ●2年「持続可能な社会を考える」P162～163 / 3年「千年先のふるさとへ」P137～140 など
<p>【教科等横断的な視点に立った資質・能力】 ・言語能力の育成について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●別冊「道徳ノート」への記述を通して自己を見つめる学習を取り入れることで、道徳科における言語活動の充実を図ることができるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年別冊「学習の記録」
<p>・情報活用能力(情報モラルを含む)の育成について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●情報モラルについて考えることのできる教材を全学年に掲載した。加えてすべての学年の本冊に特集ページを設け、情報モラルに関わる他の教育活動等においても活用できるよう工夫した。 ●インターネットを活用した発展的な学習を促すことができるよう、二次元バーコード等を通じてアクセスできる教材に関する情報を当社のホームページ上に掲載し、本冊の該当ページにおいて関連を示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「ネット将棋」P111～115 / 2年「いつでもどこでも 誰とでも」P10～12 / 3年「情報社会を生きていくために」P156～157 など ●1年「アップルロード作戦」P52～57 / 2年「相馬野馬追の季節」P50～54 / 3年「千年先のふるさとへ」P137～140 など
<p>・豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●さまざまな現代的課題に関わる教材を掲載するとともに、すべての学年において、「持続可能な社会」について自分との関わりで考えることのできる特集ページを設けた。 ●東日本大震災や阪神・淡路大震災等の災害にまつわる題材を取り上げ、それらを乗り越えていく人々の姿から学ぶことができるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「あのハチドリのように一ワンガリ・マータイ」P42～47 / 2年「持続可能な社会を考える」P162～163 など ●1年「語りかける目」P130～133 / 2年「相馬野馬追の季節」P50～54 / 3年「千年先のふるさとへ」P137～140 など
<p>【学習評価の充実】 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の学習の記録を蓄積することにより、評価の妥当性や信頼性を検討することを容易にし、また組織的・計画的な評価の取り組みの推進に役立てることができるよう、本冊と別冊「道徳ノート」の2分冊で教科書を構成した。 ●学年段階を越えて道徳科の学習の成果を円滑に接続するため、保管が容易なノート形式の記録を蓄積できるよう、本冊と別冊「道徳ノート」の2分冊で教科書を構成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年別冊
<p>【キャリア教育の充実】 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成に資する教材、また主体的な進路の選択や将来設計について考えを深めることのできる教材や特集を多数掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「加山さんの願い」P74～79 / 別冊1年P14(グラフ) / 2年「虎」P4～9 / 2年「加奈子の職場体験」P77～81 / 3年「アイツの進路選択」P72～77 / 別冊3年「考えよう 私たちの社会参画」P21 など

検討の観点	教科書の特徴	具体例
● 学習指導要領総則との関連 一 道徳教育推進上の配慮事項一		
【道徳教育の全体計画】 道徳教育の全体計画の作成に当たっては、生徒や学校、地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科等における学習を生かすことができる教材を選定するとともに、別冊には他の教育活動とも連携を図りながら活用できるページを設けるなど、本書を使用した道徳科の授業が教育活動全体を通じて行う道徳教育の要となるよう配慮した。 ●本冊では家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材、地域の人との交流や地域における行事等を題材とした教材を数多く掲載し、家庭や地域社会との積極的な関わりを促す工夫をした。 ●本冊・別冊ともに裏表紙に本書を媒介とした「子どもの心の成長」に関する家庭との連携について記載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2年「加奈子の職場体験」P77～81／別冊2年「働くことの意義を理解し、将来を描こう」P21／3年「招集通知 一あなたが裁判員になるとき～」P142～147 など ●1年「美しい母の顔」P86～90／2年「相馬野馬追の季節」P50～54／3年「誰かのために」P24～25 など ●全学年本冊・別冊裏表紙「保護者の皆様へ」
【指導内容の重点化】 生徒の発達段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること	<ul style="list-style-type: none"> ●各学校において指導内容の重点化を図ることができるよう、本冊における各学年の掲載教材のバランス等を考慮しつつ、重点と関連の深い内容項目に該当する教材を多く取り上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊
・自立心や自律性を高め、規律ある生活をする	<ul style="list-style-type: none"> ●内容項目「自主、自律、自由と責任」は本書の重点項目の1つとして設定し、すべての学年において3教材、3時間を配当した。また、別冊への書き込みを通して、自己を振り返り、自己を深く見つめ、人間としての生き方について考えを深めることができるよう配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「裏庭のできごと」P10～14／2年「小さなこと」P70～71／3年「リクエスト」P4～9 など ●全学年別冊
・生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること	<ul style="list-style-type: none"> ●生命尊重を本書の最重点項目と位置付け、内容項目「生命の尊さ」に関する教材を全学年3教材、3時間配当した。「生命倫理」に関わる教材も取り上げ、生命の尊さについて多面的・多角的に考えることができるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「曙号の死」P58～61、「語りかける目」P130～133／2年「天使の舞い降りた朝」P99～102、「看取りの医者」P151～156／3年「誰かのために」P24～25、「ドナー」P88～90 など
・法やきまりの意義に関する理解を深めること	<ul style="list-style-type: none"> ●内容項目「よりよく生きる喜び」についても本書の重点項目の1つとして設定し、すべての学年において3教材、3時間を配当した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「いつわりのバイオリン」P18～23、「銀色のシャープペンシル」P120～125／2年「ネパールのビール」P72～76、「タッチアウト」P104～107／3年「ひまわり」P54～60、「二人の弟子」P105～109 など
・自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと	<ul style="list-style-type: none"> ●関連の深い内容項目「遵法精神、公德心」について、各学年2教材、2時間を配当し、別冊1年では「規範と規範意識」に関する特集を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「人に迷惑をかけなければいいのか？」P91～95／別冊1年「誰もが守るべきことがある」P21／3年「ベビーカー論争」P124～127 など
・伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けること	<ul style="list-style-type: none"> ●内容項目「社会参画、公共の精神」や「勤労」については「職場体験活動」や「ボランティア活動」との関連を図った教材を取り上げるとともに、別冊に社会参画に関わる書き込み欄や特集を設けるなどして、生徒が主体的に社会の形成に参画していこうとする意欲を喚起する工夫をした。 ●「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」の内容項目に関する教材を通して国や郷土の伝統と文化への関心を高め、日本人としての自覚をもって文化の継承・創造と社会の発展に貢献しようとする態度を養うことができるよう編集した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「加山さんの願い」P74～79／2年「加奈子の職場体験」P77～81／別冊2年「働くことの意義を理解し、将来を描こう」P21／別冊3年「考えよう 私たちの社会参画」P21 など ●1年「音を宿す」P65～67、「アップロード作戦」P52～57／2年「相馬野馬追の季節」P50～54、「国」P118～121／3年「運命の木 一姫路城の大柱一」P128～133、「千年先のふるさとへ」P137～140 など
● 学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」との関連 一 道徳科の指導及び指導の配慮事項一		
【道徳科の目標】 よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、(道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる) ※かつこ内は次ページ	<ul style="list-style-type: none"> ●本冊と別冊「道徳ノート」の2冊を併用することで、道徳科の目標の達成に資するよう教科書を構成した。 ●本冊においては「ともに考え、話し合う」ことができるよう、多様で魅力あふれる教材を取りそろえるとともに、各教材に「考える・話し合う」を設け、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す工夫をした。「学習の手がかり」を基に、活発な対話や多面的・多角的な道徳的思考を促し、人間としての自己の生き方について考えを深める学習ができるよう構成した。 ●別冊においては、「自分を見つめ、考え、のびす」ことができるよう、生徒の発達の段階に応じた表現で、道徳的諸価値(内容項目)が端的に解説されている。また、授業を通して感じたことや考えたことを記述する「学習の記録」や、一定期間のまとめりで授業を振り返りながら書き込みができる「心に残っている授業の記録」、教材ごとに学びを振り返ることができる「心のしおり」などが用意されている。「道徳ノート」を活用することを通して、道徳的価値についての理解を確かなものにし、人間としての自己の生き方についての考えを深める学習ができるよう構成した。 	 <ul style="list-style-type: none"> ●生徒が学習の見通しをもつための「めあて」を示した。 ●主体的・対話的で深い学びに資する問い。 ●生徒がいきなり学習を広げたり深めたりできる内容を、さまざまな視点から示した。 ●価値理解を深めるための、学習する内容項目にそった名言。 <p>◀「考える・話し合う」(2年P81)</p>

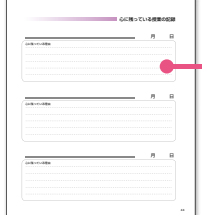
検討の観点	教科書の特徴	具体例
<p>【道徳科の目標】 (よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる ※かっこ内は前ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●問題意識をもち多様に考えることができる教材、深く考えることができる教材、自己の体験や経験に照らして考えることができる教材、悩みや葛藤、心の揺れなど人間らしさが理解できる教材、よりよく生きる喜びや勇氣、感動を覚える教材など、教材の特質を踏まえて選定を行い、道徳性を構成する諸様相である道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をバランスよく養うことができるよう配慮した。 ●教師が生徒の実態を踏まえた「ねらい（育成する道徳性）」を設定し、その達成を目指す授業の構想に応じて柔軟に活用できるよう別冊「道徳ノート」を構成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●【問題意識をもち多様に考えることができる教材例】1年「国際協力がってどうということ？」P106～110 ●【深く考えることができる教材例】3年「月明かりで見送った夜汽車」P78～81 ●【自己の体験や経験に照らして考えることができる教材例】1年「裏庭のできごと」P10～14 ●【悩みや葛藤、心の揺れなど人間らしさが理解できる教材例】2年「タッチアウト」P104～107 ●【よりよく生きる喜びや勇氣、感動を与えられる教材例】3年「ひまわり」P54～60 など ●全学年別冊
<p>【指導計画作成上の配慮事項】 道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本冊の各教材は、各教科における学習内容や他の教育活動、季節や行事などとの内容的・時期的関連を考慮し、掲載順に取り扱うことで効果的な学習が期待できるよう配列を工夫した。 ●本冊巻末には各教材の該当内容項目や各教科等との関わりを示すとともに、後ろ見返しには視点及び内容項目ごとの教材一覧を掲載し、年間指導計画の作成において参考となるよう配慮した。 ●別冊の「道徳ノート」は各学校の実態に応じた年間指導計画に対応できるよう構成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊 ●全学年本冊巻末「内容一覧」／全学年本冊後ろ見返し ●全学年別冊「学習の記録」
<p>内容項目について、各学年において全て取り上げることとする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年段階において、相当する教材や各内容項目に関わる学習ページをどれも取り上げている。 ●別冊では当該学年で学ぶ内容項目についてのページを設け、内容項目順に配列した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊・別冊 ●全学年別冊
<p>生徒や学校の実態に応じ、3学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめ防止とも関わりの深い内容項目「自主、自律、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」を重点項目とし、これらに関する教材について全学年3教材、3時間を配当した。 ●例えば、「生命の尊さ」を「家族愛、家庭生活の充実」との関わりで捉えた授業を構想することなど、本冊巻末に示されている教材の関連内容項目を参照しながら、複数の内容項目との関連を密にした指導を立案することができるように内容項目を明示した。 ●教材で学んだ内容項目についての理解をいっそう深められるよう、全学年に3つずつ「thinking」を配置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「ネット将棋」P111～115／2年「地図のある手紙」P146～150／3年「二人の弟子」P105～109 など ●1年「語りかける目」P130～133／2年「野生の猛禽を守るために」P25～29／3年「誰かのために」P24～25、「てんびんばかり」P70～71 など ●1年「してもよい【いじめ】などない」P41／2年「海に住む人 森に住む人」P30～31／3年「日々是好日」P22～23 など
<p>【生徒が主体的に道徳性を養うための指導】 生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●別冊「道徳ノート」を活用し「自分が自分に自分を問う」ことを通して、生徒が自分自身の学習を振り返って成長を実感したり、課題や目標を見つけたりすることができる。 ●別冊の「道徳ノート」は生徒にとって貴重な内面の記録となり、また、保存性に優れ、整理や保管がしやすいことから、長期的な視野で自らの成長を振り返ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年別冊 ●全学年別冊
<p>道徳性を養うことの意義について、生徒自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本冊の各教材に設けている「考える・話し合う」のめあてを学習課題とし、問いを手がかりとして、生徒の主体的な学習が促されるよう配慮した。 ●めあては、学年段階を考慮しつつ、教材によっては道徳的価値を明示せず、「生徒自らが道徳的価値を見出し、そのよさに気づく」ことができるよう配慮し、学年が進むに従って「価値そのものを深く考え、哲学的に思考すること」ができるように構成した。 ●別冊「道徳ノート」には道徳的諸価値についての解説を示し、生徒が学習を通して身につけた道徳的知見を折に触れて確認することができるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊「考える・話し合う」 ●全学年本冊「考える・話し合う」 ●全学年別冊
<p>発達段階を考慮し、人間としての弱さを認めながら、それを乗り越えてよりよく生きようとするこのよさについて、教師が生徒と共に考える姿勢を大切にすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●内容項目「よりよく生きる喜び」については本書の重点項目の1つとして設定し、すべての学年において3教材、3時間を配当した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「いつわりのバイオリン」P18～23、「銀色のシャープペンシル」P120～125／2年「ネパールのビール」P72～76、「タッチアウト」P104～107／3年「ひまわり」P54～60、「二人の弟子」P105～109 など

検討の観点	教科書の特徴	具体例
<p>【多様な考え方を生かすための言語活動】 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●多様な考え方や感じ方に触れる対話的な学習が授業の中で活発に展開されるよう「考える・話し合う」における問いに工夫を凝らした。 ●自分の考えを基に討論することを通して、学習の深まりが期待できる教材を積極的に掲載した。 ●別冊「道徳ノート」の「学習の記録」は、左右２段で構成し、基となる自分の考えを書き込んだり、他の人の考えを書き留めたり、柔軟に活用することができるよう配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊「考える・話し合う」 ●1年「半分おとな 半分こども」P29～31 / 2年「これは駄目？ これも駄目？」P32～33 / 3年「ドナー」P88～90、「ベビーカー論争」P124～127 など ●全学年別冊「学習の記録」
<p>【問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導】 生徒の発達段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本書では道徳科における「問題解決的な学習」を促す教材や問いの編集にあたり、次の４点を具備すべき要件とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値が介在している道徳上の問題であること ・生徒が自己の問題として捉え、考えられる問題であること ・道徳的価値との関連から、その問題の解決が目指される学習であること ・道徳科の目標の実現やその時間のねらいの達成に資する学習であること ●教材や問いの編集にあたっては、解決を目指す「問題」の態様として次の４つのいずれかの状況に起因することを条件とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値が実現されていない状況 ・道徳的価値についての理解が不十分な状況 ・道徳的価値を実現しようとするができない状況 ・複数の道徳的価値のどちらを優先すべきか逡巡する状況 ●生徒に具体的な道徳的行為の場面を想起させ追体験させる問いや、役割演技や表現活動を促す活動を本冊の「考える・話し合う」に設け、指導のねらいに即して道徳的行為に関する体験的な学習が適切に取り入れられるよう配慮した。 ●教材ごとに独立した「型」としての指導とならないよう、本冊の「考える・話し合う」においては「登場人物への自我関与が中心の学習」となる教材においても、問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れた問いを示すなどして、主題やねらいに応じてそれぞれの要素を組み合わせながら、授業者の展開構想に柔軟に対応ができるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「島耕作 ある朝の出来事」P62～64、「吾一と京造」P100～105 / 2年「いつでも・どこでも・誰とでも」P10～12、「これは駄目？ これも駄目？」P32～33 / 3年「てんびんばかり」P70～71、「ベビーカー論争」P124～127 など ●1年「いつわりのバイオリン」P18～23 / 2年「加奈子の職場体験」P77～81 / 3年「席を譲られて」P68～69 など ●全学年本冊
<p>【情報モラルと現代的な課題に関する指導】 生徒の発達段階や特性等を考慮し、第２に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●情報モラルについて考えることのできる教材を全学年に掲載した。加えて、本冊巻末に特集ページを設け、他の教育活動とも関連を図りながら折に触れて活用できるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「ネット将棋」P111～115、「言葉の向こうに」P159～163 / 2年「いつでも・どこでも・誰とでも」P10～12、「君、想像したことある？」P40～41 / 3年「ピヨ子」P64～67、「情報社会を生きていくために」P154～155 など
<p>例えば、科学技術の発展と生命倫理との関係や社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てよう努めること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●発達の段階を考慮し、科学技術の発展と生命倫理との関係について考えることのできる教材を取り上げた。各教材の取り扱いについては、知見を得るだけでなく、それぞれの問題の解決に向けて取り組もうとする道徳的実践意欲と態度が養われるよう、「考える・話し合う」の問いについて工夫を凝らした。 ●本冊すべての学年の巻末に「持続可能な社会」について自分との関わりで考えることのできるページを特設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●2年「看取りの医者」P151～156、thinking ③「命の選択」P157 / 3年「誰かのために」P24～25、「ドナー」P88～90 など ●1年「よりよい未来をつくるために」P178～179 / 2年「持続可能な社会を考える」P162～163 / 3年「持続可能な社会の実現を目指して」P158～159
<p>多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのないようにすること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●現代的な課題に関する教材については、それぞれ異なる立場での主張がなされるものやさまざまな対立的な問題を抱える事柄が多いため、一面的な扱いを避け、多様な見方・考え方ができるよう留意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「国際協力ってどういうこと？」P106～110 / 2年「野生の猛禽を守るために」P25～29 / 3年「ベビーカー論争」P124～127 など
<p>【家庭や地域社会との連携による指導】 道徳科の授業を公開したり（中略）家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本冊では家族との関わりや家庭での出来事を描いた教材、地域の人との交流や地域における行事等を題材とした教材を数多く掲載し、家庭や地域社会との積極的な関わりを促す工夫をした。 ●本冊・別冊ともに裏表紙に本書を媒介とした「子どもの心の成長」に関する家庭との連携について記載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「美しい母の顔」P86～90 / 2年「相馬野馬追の季節」P50～54 / 3年「誰かのために」P24～25 など ●全学年本冊・別冊裏表紙「保護者の皆様へ」

検討の観点	教科書の特徴	具体例
学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」との関連 一 道徳科の教材に求められる内容の観点一		
<p>【教材の開発と活用の創意工夫】 生徒の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用にも努めること。特に、生命の尊厳、社会参画、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人間のよさが描かれている教材や問題点を見つかることができる教材、多面的・多角的に考えることのできる教材、心を揺さぶり生徒が感動を覚える教材など、長く読み継がれてきた名作から新作までさまざまな教材を幅広く掲載した。 ●物語教材だけでなく、詩（歌詞）やエッセイ、漫画や新聞記事を基に考える教材など、生徒の学習意欲を喚起する多様な教材を取りそろえた。 ●著名人や先哲の言葉を手がかりに、主体的・対話的で深い学びを促すことができるよう、本冊教材のすべてにおいて、扱う題材や学習する道徳的価値に関わる格言・名言を掲載した。 ●本冊「thinking」や別冊には、グラフやアンケート結果、詩（歌詞）など、本冊教材との併用で考えを広げたり深めたりすることができる資料やトピック等を積極的に掲載し、授業者の展開構想に応じて多面的・多角的に考える学習が柔軟にできるよう工夫した。 ●「問題解決的な学習」や「体験的な学習」を取り入れることで、道徳的な問題について、多面的・多角的な思考を促すことができる教材を多数取り上げている。「問題解決的な学習」は解決を目指す問題が道徳的であること、「体験的な学習」は活動そのものが目的化しないようそれぞれ配慮し、問いを吟味した。 ●一面的・一方向的な思考しかもたらさない内容になっていないか、教材の選定を慎重に行うとともに、「考える・話し合う」のめあてと問いを吟味した。 ●めあては、学年段階を考慮しつつ、教材によっては道徳的価値を明示せず、「生徒自らが道徳的価値を見出し、そのよさに気づく」ことができるよう配慮し、学年が進むに従って「価値そのものを深く考え、哲学的に思考する」ことができるように構成している。 ●すべての教材の「考える・話し合う」に学習の発展的な広がりや深まりを促す「考えを広げる・深める」というコーナーを設け、多面的・多角的な考察を促すための工夫をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ●【人間のよさが描かれている教材例】1年「夜のくだもの屋」P68～73 / 2年「地図のある手紙」P146～150 / 3年「月明かりで見送った夜汽車」P78～81 ●【問題点を見つかることができる教材例】1年「人に迷惑をかけなければいいの？」P91～95 / 2年「いつでも・どこでも・誰とでも」P10～12 / 3年「ピヨ子」P64～67 ●【多面的・多角的に考えることのできる教材例】1年「半分おとな 半分子ども」P29～31 / 2年「これは駄目？ これも駄目？」P32～33 / 3年「ドナー」P88～90 ●【心を揺さぶり生徒が感動を覚える教材例】1年「美しい母の顔」P86～90 / 2年「最後の年越しそば」P108～111 / 3年「ひまわり」P54～60 など ●1年「島 耕作 ある朝の出来事」P62～64 / 2年「路上に散った正義感」P96～98 / 3年「風に立つライオン」P102～104 など ●全学年本冊 ●1年「してもよい『いじめ』などない」P41 / 別冊1年「健康で安全な調和のとれた一日に」P6 / 2年「命の選択」P157 / 別冊2年「いじめの構造」P13 / 別冊3年「人生の目標」P4、「相手の心に寄り添うということ」P7 など ●【問題解決的な学習を促す教材】1年「島 耕作 ある朝の出来事」P62～64 / 2年「いつでも・どこでも・誰とでも」P10～12 / 3年「てんびんばかり」P70～71 など ●【体験的な学習を促す教材】1年「いつわりのバイオリン」P18～23 / 2年「加奈子の職場体験」P77～81 / 3年「席を譲られて」P68～69 など ●全学年本冊「考える・話し合う」
<p>・生命の尊厳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生命尊重を本書の最重点項目と位置付け、内容項目「生命の尊厳」に関する教材を全学年3教材、3時間担当した。「生命倫理」に関わる教材も取り上げ、生命の尊厳について多面的・多角的に考えることができるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「曙の死」P58～61、「語りかける目」P130～133 / 2年「天使の舞い降りた朝」P99～102、「看取りの医者」P151～156 / 3年「誰かのために」P24～25、「ドナー」P88～90 など
<p>・社会参画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●Bの視点及びCの視点に関わる題材を中心に、本冊・別冊ともにさまざまな視点から考え、社会に積極的に関わっていくこととする姿勢を育む教材を掲載した。また、本冊すべての学年の巻末に「持続可能な社会」という視点で生徒の主体的な社会参画意識を高めるページを特設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「加山さんの願い」P74～79 / 2年「迷惑とは何ぞ」P128～131 / 3年「原稿用紙」P41～43、「持続可能な社会の実現を目指して」P158～159 など
<p>・自然</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●内容項目「自然愛護」に関する教材はもとより、「相互理解、寛容」や「感動、畏敬の念」など、異なる内容項目の学習においても人間と自然との関わりについて多面的・多角的に考えることのできる教材を数多く掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「あのハチドリのように 一ファンガリ・マータイ」P42～47、「ガジュマルの木」P164～168 / 2年「樹齢七千年の杉」P13～16、「野生の猛禽を守るために」P25～29 / 3年「襟裳のこと」P44～47、「ほっちゃれ」P110～112 など
<p>・伝統と文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」の内容項目に関する教材を通して国や郷土の伝統と文化への関心を高め、日本人としての自覚をもって文化の継承・創造と社会の発展に貢献しようとする態度を養うことができるよう編集した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「音を宿す」P65～67 / 2年「相馬野馬追の季節」P50～54 / 3年「運命の木 一姫路城の大柱」P128～133 など

検討の観点	教科書の特徴	具体例
人物を扱った教材 ・先人の伝記 ・スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ●先人や著名人の夢や目標の達成を支えた人知れぬ努力や苦悩そして幼少期の体験などから、生徒が人物を身近に感じ、「人間として生きることの素晴らしさ」を感じ取れるよう配慮した。 ●国内外を問わず、先人の多様な生き方に触れることができるよう、全学年に伝記を掲載した。生きる勇気や知恵、人間としての弱さや醜さと、それを乗り越えようとする強さや気高さを感じ取り、「人間として生きる意味」について考えを深めることができるように配慮して、教材を選定した。 ●オリンピックやパラリンピックなどのスポーツの国際大会や、各種スポーツ競技を題材としたもの、また、さまざまな魅力あるアスリートや彼らを支えた人物などを全学年で取り上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●【先人の伝記】1年「ミスター・ヌードル 一安藤 百福一」P80～85 / 2年「本物の将棋指し 一村山 聖一」P122～127 / 3年「虹の国 一ネルソン・マンデラー」P96～101 など ●【スポーツ】1年「終わりになき挑戦 一成田 真由美」P140～147 / 2年「『キング』と呼ばれる理由 一三浦 知良一」P42～47、「人間であることの美しさ」P86～87 / 3年「ぶれない心 一松井 秀喜一」P48～52 など
・現代的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ●食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育などの現代的な教育課題について、他の教育活動との関連を図って、自分との関わりで考えることができる教材を選定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「あのハチドリのように 一ワンガリ・マータイ」P42～47 / 2年「相馬野馬追の季節」P50～54 / 3年「ベビーカー論争」P124～127 など
・人権・いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> ●いじめ防止と関わり深い内容項目「公正、公平、社会正義」で扱う教材はもとより、「友情、信頼」や「思いやり、感謝」、「生命の尊さ」など、さまざまな道徳的価値の理解を深めることを通していじめ防止につながるよう教材を選定した。 ●「いじめ」や「人権」に関する課題を、道徳の内容に示された4つの視点から捉えて考えを深めるページを本冊各学年の巻末に特設した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「ヨシト」P36～40 / 別冊1年「いじめ撲滅宣言」P26 / 2年「君、想像したことある？」P40～41 / 別冊2年「いじめの構造」P26 / 3年「卒業文集最後の二行」P36～40 / 別冊3年「世界人権宣言」P26 など ●1年「いじめを許さない 私たちの心」P174～175 など
・情報化への対応（情報モラル）	<ul style="list-style-type: none"> ●道徳科の特質を踏まえた情報モラルに関わる学習の充実を図るため、全学年に情報モラルについて考えることのできる教材を掲載した。加えて、本冊巻末に特集ページを設け、他の教育活動とも関連を図りながら折に触れて活用できるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1年「ネット将棋」P111～115 / 2年「いつでも・どこでも・誰とでも」P10～12 / 3年「情報社会を生きていくために」P154～155 など
【道徳科に生かす教材】 生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること	<ul style="list-style-type: none"> ●中学生期は抽象的思考力が高まっていくことから、「生徒自らが道徳的価値を見出し、そのよさに気づく」ことのできる教材や問いを吟味するとともに、学年が進むに従って「価値そのものを深く考え、哲学的に思考すること」のできる教材や問いを精選し、発達の段階に応じて道徳的な思考が深まるよう編集した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊・別冊
人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること	<ul style="list-style-type: none"> ●「人間尊重の精神」は教育の基本であり、生命の尊重、人格の尊重、基本的人権、思いやりの心などの根底を貫く国境や文化なども超えた普遍的精神であることを基に、人格の内面的な充実が図られるよう配慮して編集した。 ●生徒が日常生活を振り返って道徳的価値の意義や大切さについて考えることのできる教材や、今日的課題を扱った教材、思いやりや友情、いじめ問題などに関わる「悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題」について扱った教材を通し、生徒が自己を肯定的に捉え、未来に向けた展望が開け、自分の生き方の中で役立つような考察ができる教材を選択した。 ●先人の伝記については、生徒が感動を覚えるような魅力的な人物を取り上げた。また、歴史的な事実の理解にとどまることのないよう「考える・話し合う」の問いを吟味し、先人の生きる勇気や知恵、生きることの魅力や意味の深さなどについて考えることを通して、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を感じ取ることができるよう配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊・別冊 ●全学年本冊・別冊 ●1年「ミスター・ヌードル 一安藤 百福一」P80～85 / 2年「本物の将棋指し 一村山 聖一」P122～127 / 3年「虹の国 一ネルソン・マンデラー」P96～101 など
多様な見方や考え方ができる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること	<ul style="list-style-type: none"> ●教材の選定にあたっては、特定の見方や考え方に偏った取扱いにならないよう留意した。特に、現代的な課題に関する教材については、異なる立場での主張がなされるものやさまざまな対立的な問題を抱える事柄が多いため、一面的な扱いを避け、多様な見方・考え方ができるよう配慮した。 ●各教材の「考える・話し合う」の問いを吟味し、一面的・一方向的な思考しかもたらさない内容にならないよう留意した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊・別冊 ●全学年本冊「考える・話し合う」

● 学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」との関連 —道徳科の評価—

【道徳科における評価の意義】 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める	<ul style="list-style-type: none"> ●別冊「道徳ノート」の「学習の記録」は、年間の授業時数分を巻末に一元化することで、生徒の学習状況を時系列に沿って確認することができるようにした。 ●学期の中間や終わりなどに、「心に残っている授業の記録」欄へ記述することを通して、一定期間において何が生徒の心を動かしたのか、どのような道徳的成長があったのかを見取ることができるよう工夫した。 ●巻末折込みの「心のしおり」には、教材別に学習の振り返りができるチェック欄を設けた。 	 <p>生徒の記入から、より考えの深まった授業を見取ることができ、評価の手がかりとなる。</p> <p>◀「心に残っている授業の記録」(全学年別冊)</p>
---	--	---

検討の観点	教科書の特徴	具体例
<p>● 本書の編集における配慮や工夫等（組織・構成配列・表記・造本・その他）</p>		
<p>道徳科の特質を反映するための構成・配列上の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●教育活動全体を通じて行う道徳教育の要となる道徳科の特質を踏まえ、各教科の学習内容や他の教育活動などとの時期的・内容的関連を考慮して配列している。なお、「いじめ」に関する教材を用いた授業は、学級内の人間関係が一定程度形成された段階で実施することが望ましいと考え、各学年とも一つの教材を6月中旬頃に学習できるように配列した。 ●各学年の授業開きでの活用を想定し、本冊冒頭に「自分を〇〇〇―道徳の時間とは―」を、また、各時間での振り返りにおける活用を想定し、別冊巻末折り返しに「自分を見つめ、考え、のびす」を設けた。いずれも道徳科における学習活動や考える視点を具体的にイメージできるように工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊 ●全学年本冊冒頭「自分を〇〇〇―道徳の時間とは―」／全学年巻末折り返し「自分を〇〇〇―道徳の時間とは―」
<p>「考え議論する道徳」ならびに「主体的・対話的で深い学び」を実現するための工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が主体的に道徳的価値の理解や人間としての生き方について考えを深めることができる教材を精選するとともに、本冊の教材ごとに設けた「考える・話し合う」のめあてや問い、学習の広がりや深まりを促す「考えを広げる・深める」を手がかりとして、授業での活用はもとより、授業の事前・事後においても家の人や友達と語り合うことができるよう工夫した。 ●別冊「道徳ノート」には、グラフやアンケート結果、詩（歌詞）など、指導者の展開構想に応じて活用することができるさまざまな資料を掲載し、本冊と別冊の2冊を併用して答えが1つではない道徳的課題に向き合えるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊 ●全学年別冊
<p>「質の高い多様な指導方法」への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●構成内容の異なる本冊と別冊の2冊構成とし、指導者の展開構想や生徒の学習状況等に応じて多様な指導方法を取り入れた授業が実践できるよう工夫した。 ●教材ごとに独立した「型」としての指導とならないよう、本冊の「考える・話し合う」においては登場人物への自我関与が中心の学習となる教材においても、問題解決的な学習や体験的な学習の視点を踏まえた問いを示すなどして、授業者の展開構想に柔軟に対応ができるよう工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊・別冊 ●全学年本冊「考える・話し合う」
<p>「カリキュラム・マネジメント」の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科や他の教育活動との関連を図って学習することができる教材を選定し、教材ごとにそれぞれの関わりを本冊の巻末に示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊巻末「内容一覧」
<p>高等学校との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●先哲の言葉や考えを手がかりに道徳的価値の理解や人間としての生き方についての考えを深めることができるよう、本冊すべての教材の最後に格言・名言を掲載した。加えて、第3学年においては哲学者の考え方や生き方を自分との関わりにおいて考えることができる教材を掲載し、主に公民科との接続を考慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●【格言・名言】全学年本冊（別冊にもあり） ●【教材】3年「カントとルソー」P113～115、「ショーペンハウアーとニーチェ」P148～150
<p>内容と分量への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年とも年間の授業時数に対応した35本の教材を用意した。 ●学年段階を考慮し、第1学年は本文文字サイズを大きくしている。各教材の文字量や書き込みのスペースは生徒が負担感を抱かぬように配慮した。 ●別冊「道徳ノート」の書き込みは本冊教材学習時に使用する「学習の記録」のみに限定して巻末にまとめることで、ページ数を削減し、書く活動や持ち運びの負担軽減に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊 ●全学年本冊・別冊 ●全学年別冊
<p>表記や表現、文言への配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の読み取りに差異が生じないよう、未習の漢字には初出のみならず、すべてにふりがなを配した。ただし、固有名詞は文章の読みやすさを考慮し、教材初出のみにふりがなを付した。 ●学習上説明を要する文言や固有名詞などに、必要に応じて脚注を付した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊・別冊 ●全学年本冊
<p>造本上（体裁、製本、印刷、用紙）の配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●判型はワイドなA B判を採用し、白を基調としたゆとりある紙面で圧迫感がないよう構成するとともに、イラストを大きく扱い、生徒にとって見やすく、親しみやすい紙面となるよう工夫した。 ●本冊と同大判である別冊は、本冊の背に厚みを取り、見返しをつけて強度を高めることで本冊巻末に収納できる体裁とし、生徒の携帯や保管時の利便性を図った。 ●別冊の中とじの針金は先端部分を内側に曲げ安全に配慮するとともに、3カ所留めにより十分な強度を確保した。 ●環境への配慮から、印刷には植物油インキを使用し、用紙はそれぞれの構成内容や使用用途を踏まえた再生紙を用いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書全体 ●全学年別冊 ●全学年別冊 ●【用紙】本冊…発色のよさ、見やすさを重視／別冊…鉛筆の書きやすさ、消しやすさを重視
<p>特別支援教育・ユニバーサルデザインへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●色覚の違いにより学習に支障をきたすことのないよう、色の識別のみならず、文字情報ははじめマークの形状やデザインの違いなどで必要な情報が読み取れるよう配慮した。カラーユニバーサルデザインに関しては、専門の第三者機関の検証を経て、CUD認証マークの取得を予定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全学年本冊・別冊